

5. 春 石楠花と新緑の綿向山山麓 滋賀県日野町 walk

天然記念物 鎌掛谷のホンシャクナゲ・新緑の綿向き山山麓・日野祭（宵山） 2010. 5. 2.



日野町のシンボル 信仰の鈴鹿山系綿向山 日野町音羽より

綿向神社「日野祭」



天然記念物 ホンシャクナゲの群生地 日野町鎌掛谷 2010.5.2.



六甲森林植物園に咲く石楠花を見た後、日野町の背後に聳える鈴鹿山系綿向山の山麓にある天然記念物 ホンシャクナゲの群生地 滋賀県日野町の鎌掛谷をインターネットで調べると 今が満開だと知れる。

狭い谷合の崖の斜面全体が薄ピンクのホンシャクナゲで埋まる鎌掛谷の素晴らしい景色に出会いたいと5月2日 滋賀県東近江の日野町に出かけました。

ここ数年 時期がうまく合わず谷全体を埋める石楠花に出会えていない。また、この満開の時期には 蒲生氏郷の城下町で近江日野商人のふるさと日野町の街中を本豪華な曳山が町を練るといふ「日野祭」が重なるのですが、こちらも今までに見たことがない。神戸からは 車でないと便利が悪いのですが、JR 新快速から草津線貴生川駅へ乗り継いで、そこから近江鉄道で日野駅まで、約2時間半ほどでゆける。（後でわかったのですが、日野町へは 新快速で近江八幡駅にて 直ぐ連絡がある近江バスで日野へ行くのが一番便利と聞きました。）

出かけた日は快晴の walking 日和。鎌掛谷の谷を埋める満開のホンシャクナゲに出会って、午後 頂上へはちょっと時間的に無理だったのですが、綿向山山麓の里歩きから5合目近くまで登って、夕方 日野の街に引返して、夕闇の中 辻のあちこちに引き出された曳山から祭囃子が流れる日野祭(宵山)を見学してきました。

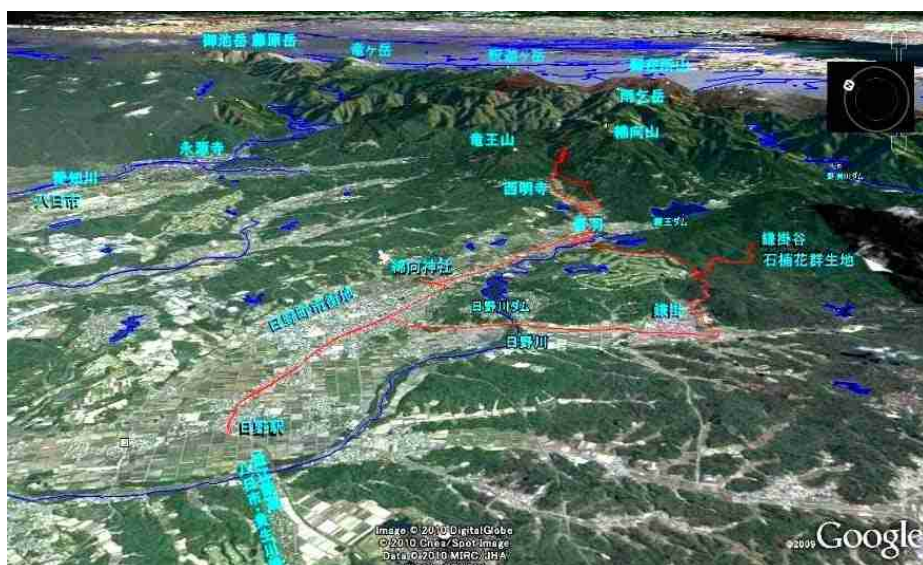
いつもは 車で 石楠花谷へ行って そのまま日野の街中をパスして換えるのですが、今回は一日たっぷり 日野の町を楽しまし

た。

滋賀県の東南 琵琶湖の東南部 鈴鹿山系の西端に位置する日野町。

戦国時代 ここを本拠とした蒲生氏の城下とした東西に細長い町並みが続く。

その後、町は衰微するが、江戸時代 この東近江から数多くの行商商人が全国に進出。日野はその中心 日野商人の町として発展し、今も古い商人の町並みが残り、その商人の町にふさわしく、町々に当時の繁栄を忍ばせる豪華な曳山が十数基も保存されていて、その祭囃子と共に毎年 5月2・3日の日野祭を彩る。



なお この地を納めた蒲生氏郷は豊臣秀吉の時代に日野から松阪・会津へ転封されて、大名となりました。



日野周辺図

車窓より見る綿向き山 右端が鎌掛谷のある猪の鼻が岳 水口周辺より

新快速と草津線に乗継いで、貴生川駅から近江鉄道に乗り換え、車窓から 形のいい綿向山の姿が大きく見えてくるとまもなく日野駅。 何度かこの電車や日野へも着ているので見慣れた景色で 10 時過ぎに近江鉄道日野駅に到着する。

鎌掛谷の石楠花のシーズンなので臨時のバスが鎌掛谷まで運行されていて、10 時 45 分のバスに乗れば 15 分ほどで 町の南西側の山裾の鎌掛谷に連れて行ってくれる。

何度か来たことがあるので、戸惑いはないが、石楠花満開の日曜日なので、すごい人かと思いましたが、便利が悪いのか思ったほどでなくちょっと拍子抜け。また、日野の町もこの日の駅から細長く綿向き山の麓へ伸びていて 街の中心はずっと東側なので、祭の日だとの雰囲気も特になし。

午前中に石楠花を見て、夕方 日野祭の曳山を見たいが、その間の午後 どうしようか…と。



近江鉄道 日野駅 と 駅前から東へ日野の町へ伸びる街道

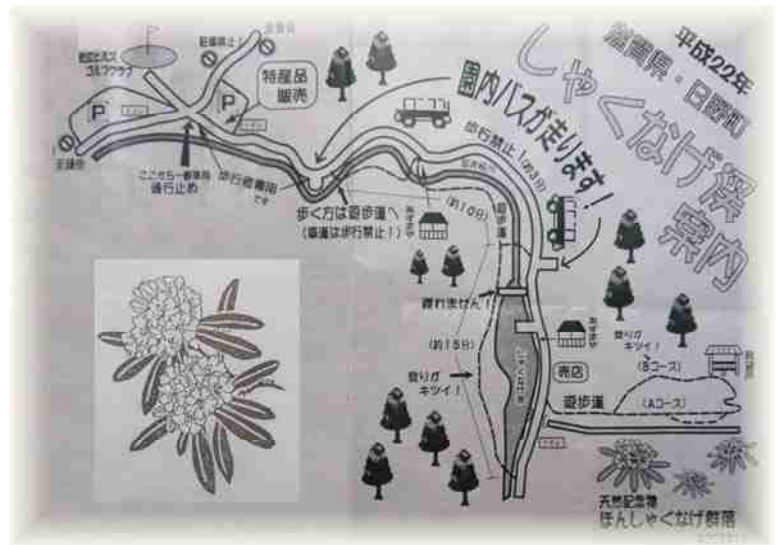
日野の町の東側に聳える鈴鹿山系の綿向山へ登るには交通事情を考えると午後からではちょっと遅いなあ…と思案しながら 駅前の案内所に入って綿向山と日野祭のパンフレッドを貰う。 夕方 6 時過ぎ 曳山の提灯に灯が入るまで、日野の街では特に何も行事はないと聞く。 また、本数が少ないが、駅前から 綿向山登山口のある西明寺の集落までバスがある。 日野祭は日暮れだし、午後時間を見ながら 旗向山の行けるところまで 登ろうと今日の予定が決まる。

1. 天然記念物 鎌掛谷のホンシャクナゲの群落を訪ねる

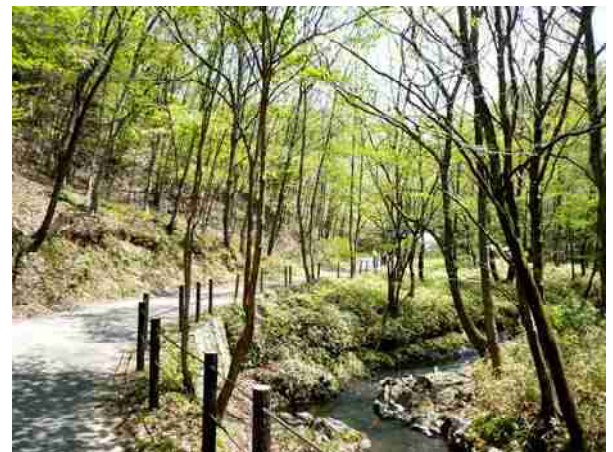
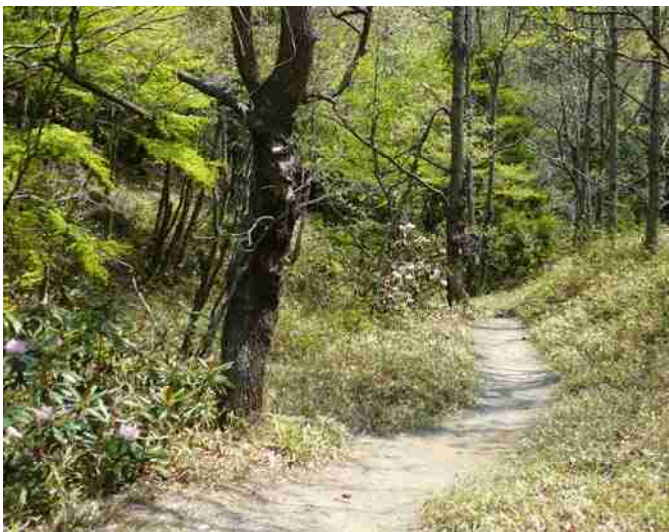
2010 .5. 2.



今年は谷全体に広がる満開のホンシャクナゲの群落が見られると胸わくわくでバスを降る。ここから右手の谷合が鎌掛谷で 入口に大きな駐車場も整備され、川沿いの左手に林道がある。シャクナゲの時期には一般車を通行止めにして、この林道を専用バスが奥の石楠花谷入口まで走り、ここで多くの人が専用バスに乗り換えて奥の石楠花谷に向かう。また、川の右側は遊歩道が川に沿って伸び、その途中には日本石楠花の株が何箇所か整備され、まじかに石楠花の花が見られる。この鎌掛他にの石楠花 ホンシャクナゲは高山植物の系統で標高の低い鎌掛に自生するのは本当に貴重で、天然記念物に指定されている。



石楠花が天然記念物に指定されているのは、ここと群馬県草津のアズマシャクナゲ・ハクサンシャクナゲの自生地2箇所だけだそう。今日はもっと多い人手と思っていましたが、それほどでなく、ゆっくりと鎌掛谷の石楠花を探索できそうだし、石楠花谷の入口まで歩いて15分ほど。遊歩道を石楠花の花を見ながら 石楠花谷の入口へ行くことにする



昔は この遊歩道沿いに西洋シャクナゲも含め、もっと多くのシャクナゲが見られたように思いますが、地元の人の話によると 今は日本シャクナゲだけになっているようです。

しかし、奥の群生地地のホンシャクナゲは7裂で14本の雄しべを持ち、ポピュラーな日本シャクナゲであるアズマシャクナゲは5裂10本の雄しべを持ち、少し花の形や色、葉が若干違うという。

素人の見た目にはほとんど大差がない、石楠花谷の石楠

花は谷川を挟んで対岸から眺めるように道が整備されていて、花のそばに近づけないので、個々の石楠花一つ一つを覗き込める場所がほとんどないので、この遊歩道で林の中に作く石楠花に近づいて、見られるのはありがたい。



鎌掛谷の入り口から石楠花谷(シャクナゲ溪)へ続く遊歩道 川沿いの林の中 点々とシャクナゲが花を咲かしている



石楠花谷(シャクナゲ溪)へ続く遊歩道に咲くシャクナゲ 2010.5.2.

池が見えてくるとまもなく石楠花谷への入り口。
対岸に渡って、林道に合流して、池の縁に出たところが、広場になっていて、ここから東へ小さな支谷が伸びている。この谷がシャクナゲの自生地が奥にある石楠花谷。



谷の入り口のところに「天然記念物 鎌掛谷ほんしゃくなげ群落」の石碑と案内板が立ち、奥へ谷川沿いに細い遊歩道が伸びている。

石楠花池と石楠花谷への入り口

鈴鹿国定公園

天然記念物 鎌掛谷のホンシャクナゲ群落地

鈴鹿国定公園特別区域にある「鎌掛谷のホンシャクナゲ群落地」は、日野町鎌掛の通称「石楠花谷」と呼ばれる標高250m前後の谷の山肌に面積およそ4万㎡、約2万本ものホンシャクナゲが見事に群生している区域です。

ホンシャクナゲはツツジ科の常緑木で、県内では比良や鈴鹿の標高の高い山地に自生し、高さ4～5m、枝わがれた先端には花を取り巻くように光沢のある細長い葉が集まっています。

花をつけるのは4月下旬から5月上旬で、つぼみのときは濃い紅色で、花を開くに当たって紅色が薄れ、淡いピンクが広がっていきます。花の直径は4～5cm、先端が7つにわかれて14本のおしべがある点がこのホンシャクナゲの特徴です。

高い山に自生するホンシャクナゲが、石楠花谷のような低い山に群生するのは非常にめずらしく、昭和6年に国の天然記念物に指定されました。シャクナゲの群落で天然記念物に指定されているのは、群馬県草津町のアズマシャクナゲ・ハクサンシャクナゲの群落と、この鎌掛の2箇所だけです。



谷の入り口を入ると 狭い V 字の谷の北側崖の腹に細い遊歩道が整備されて 緑に包まれた谷筋が眺められ、まもなく谷川対岸の崖いっぱい石楠花が点々と花をつけているのが見える。崖の上まで石楠花の花が登っている。
程なく対岸の崖の山腹の頂上近くまで山腹いっぱいの石楠花が見られる展望台につく。これだけ 花が重なって見られると「石楠花はひとつひとつ ゆっくり眺めるのがいい」とばかり言ってもらえない。緑に包まれた自生地 すばらしい眺めである。
街で育てられた大輪の豪華さはないが 一つ一つが小ぶりで 清楚な花を咲かせている。
ラッキーにも本当に一番いいときにやってきた。やっと満開の鎌掛の石楠花が見られた。

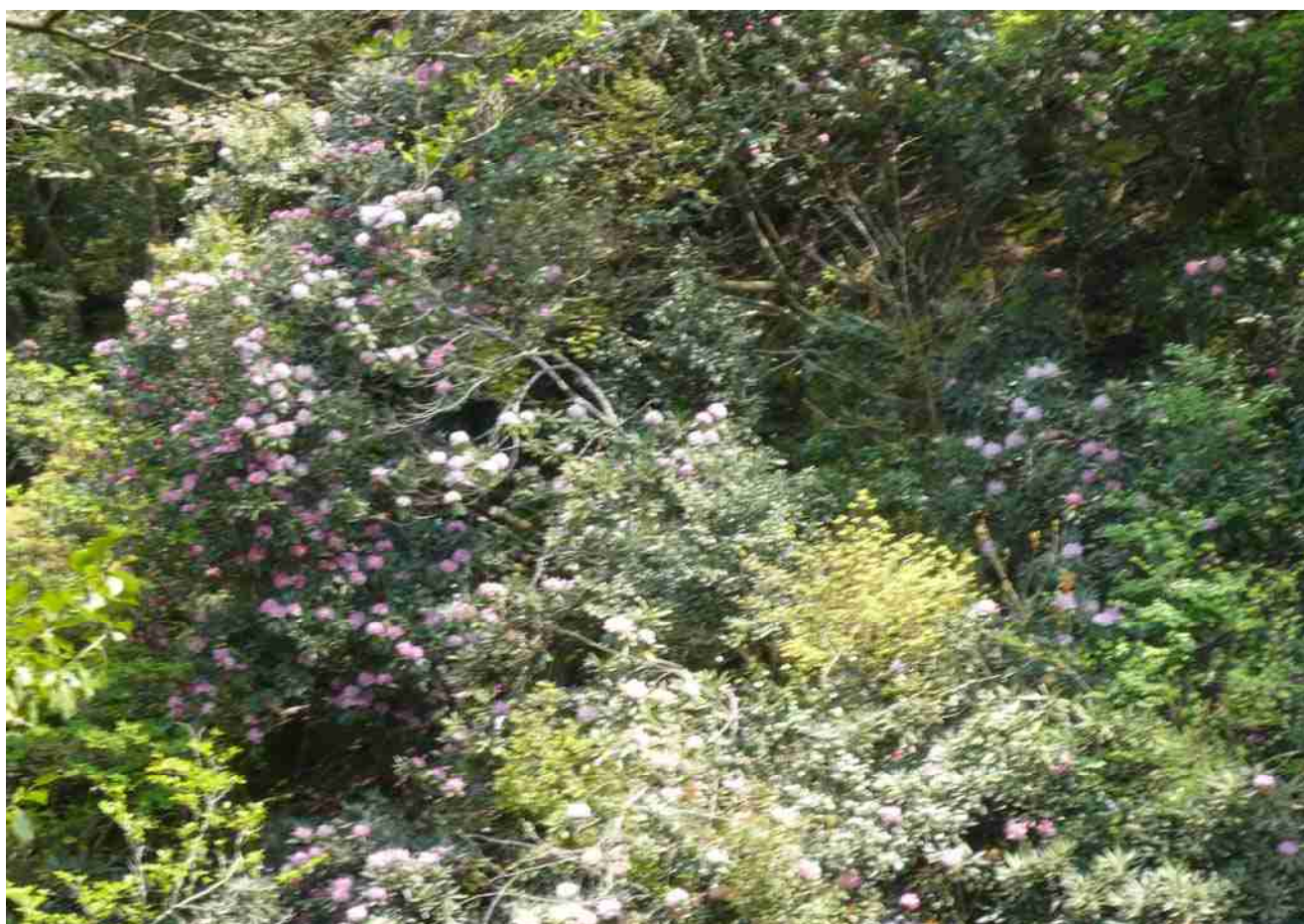


鎌掛谷のホンシャクナゲ (1) 2010.5.2.

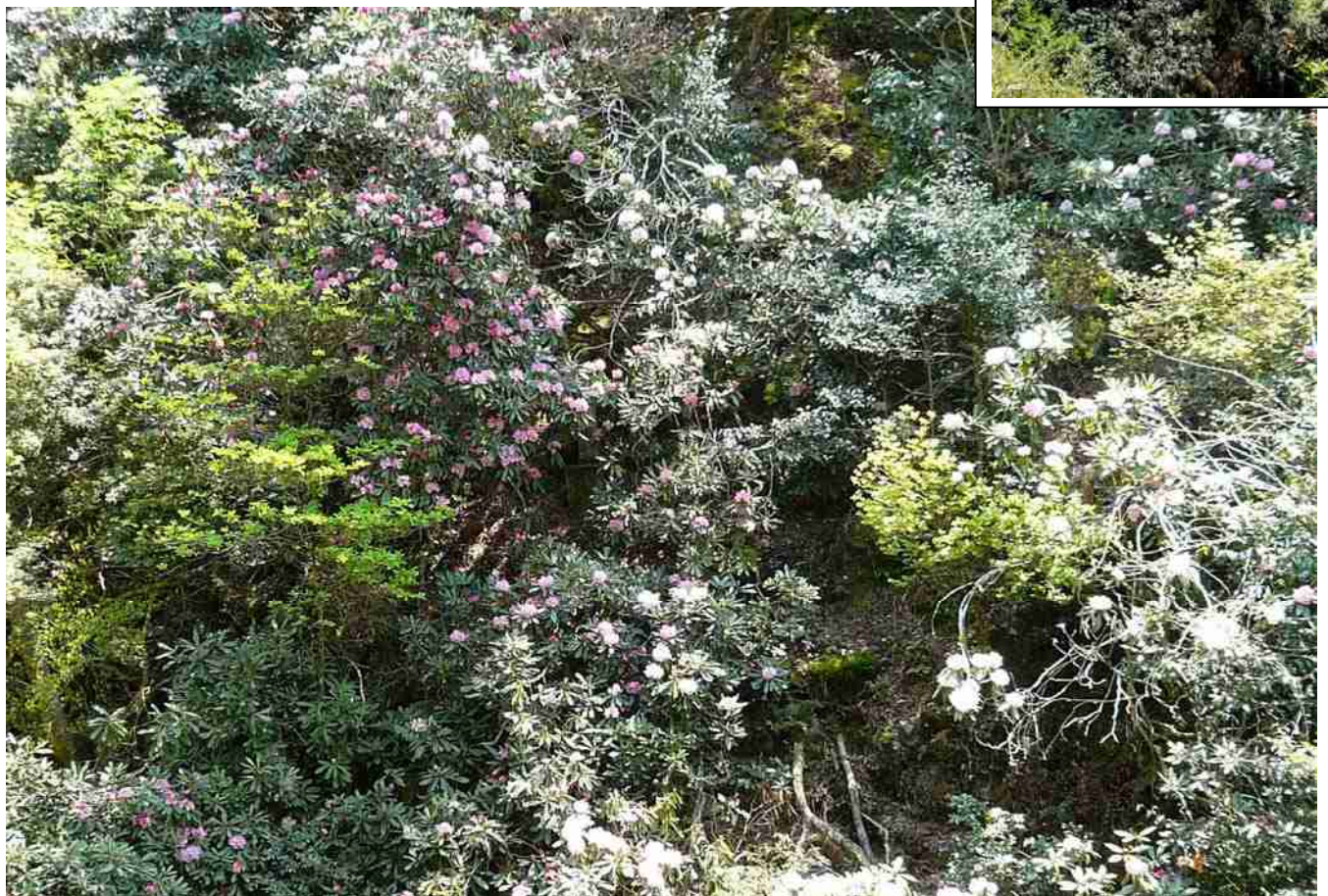
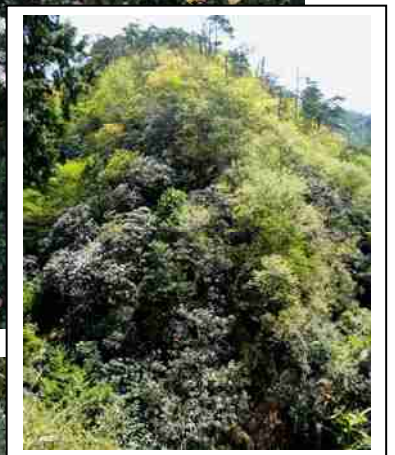
対岸の崖の頂上近くまで石楠花が登って 崖前面に咲いている



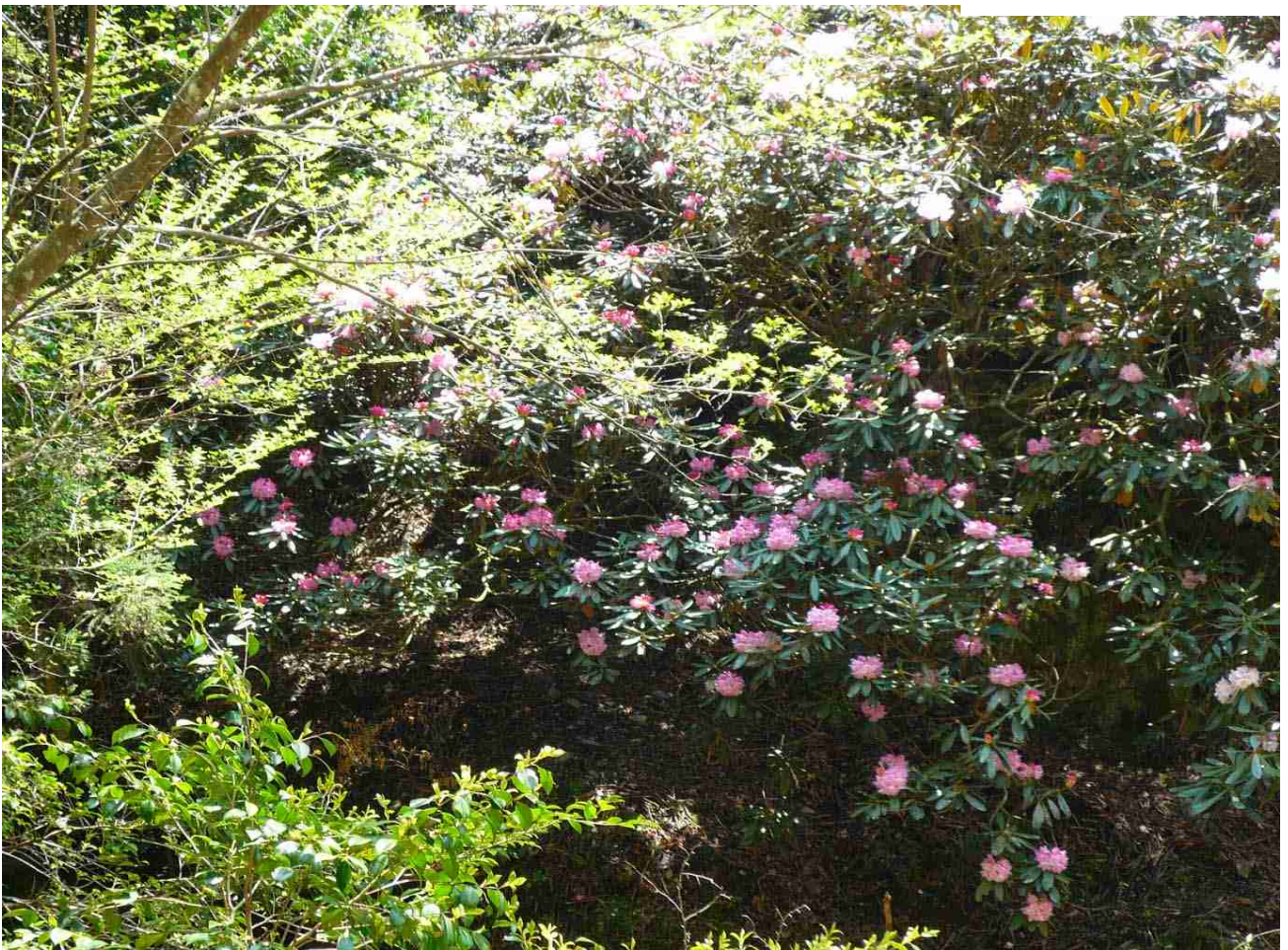
鎌掛谷のホンシャクナゲ (2) 2010.5.2.



鎌掛谷のホンシャクナゲ (3) 2010.5.2.



鎌掛谷のホンシャクナゲ (4) 2010.5.2.



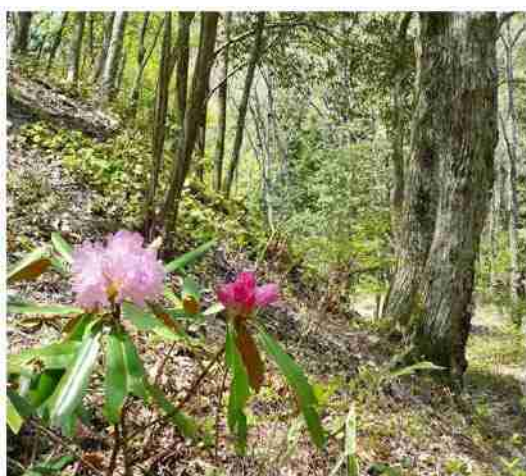
鎌掛谷のホンシャクナゲ (5) 2010.5.2.

石楠花は当たり年とそうないときが年によっても変化しますが、こんなすばらしい群生地はほかになし。

また、来年……と石楠花谷遊歩道の一番奥から、石楠花を眺めながら引き返す。

川沿いの林の中の遊歩道に入って、石楠花の下に座り込んで握り飯をほうばる。川のせせらぎを聞きながら 新緑の柔らかな緑の中に身をおく一番心地よい時間です。

ぜひ この群生地を俗化させずに守ってほしいものです。



石楠花谷への遊歩道脇に咲く石楠花

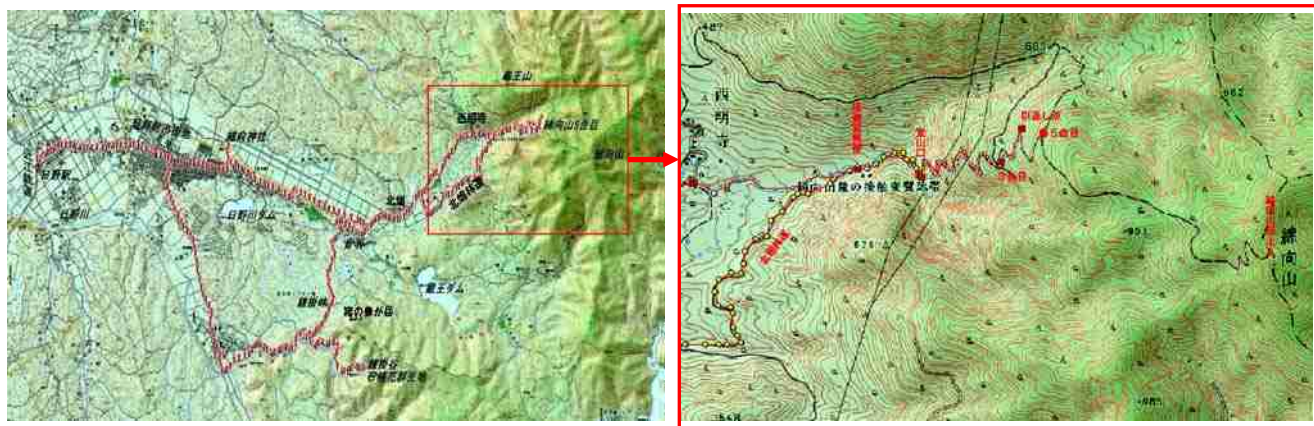


石楠花谷のホンシャクナゲ

2. 鎌掛峠を越えて 綿向山へ 2010 .5. 2.



石楠花の鎌崖谷から北へ越えた音羽集落から眺めた左側 竜王山と中央 綿向山 2010.5.2.



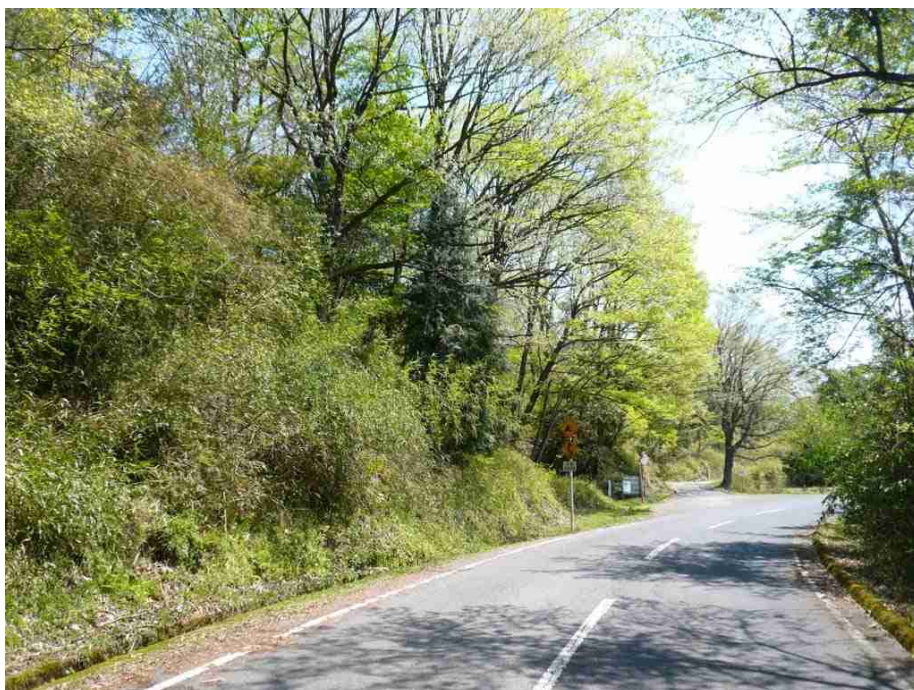
鎌掛谷から北の綿向山山麓へ 周辺 Map

昼食を済ませて 鎌掛谷入口のバス停に戻ってくると日野駅に戻るバスは運悪く出たところで、40分ほど待たねばならない。

地図を見ると日野駅の方へもどらず、そのまま北へ登って 鎌掛峠を越えれば、綿向山の山麓へ行ける。

駐車場の整理をしている地元のの人に聞くと歩いて行くのは遠くて大変だけと行けないことはないという。

じっとここでバスを待って またバスを乗り継ぐより、ぶらぶら山裾を歩いてみようかと北へ歩くことにした。午後1時過ぎなので 頂上まではちょっと無理かもしれないが、次回の偵察を兼ねて里歩きを楽しむ。



鎌掛から鎌掛峠を越えて綿向山山麓への道 鎌掛峠周辺

15分ほどで鎌掛峠を越え坂をくだって、音羽の集落に入る手前の岡が蒲生氏の居城音羽城跡で、岡の下を抜けた音羽の集落の手前で 正面に綿向山がその堂々とした姿を見せてくれる。まだ、山まで随分ありそうである。



音羽集落の手前から見る綿向山 2010. 5. 2.

綿向山は鈴鹿山系の南西の端にあり、県境主稜線から大きく西へ張り出し、日野町の背後東側に堂々とした姿で座る高さ 1110m の山で、古くから多くの人々に崇め親しまれた信仰の山であり、日野町のシンボル。大きな山腹の下半分は濃い緑の杉や檜の人工林に覆われ、その上部には淡い緑が美しいブナの森が広がっていることでも有名。

頂上には日野祭の馬見岡綿向神社の奥之宮（大嵩神社）があり、欽明天皇 6 年（西暦 545 年）頂上に祠を建てたのが始りと伝えられ、延暦 15 年（西暦 796 年）里宮として綿向神社が祀られた。

古来より綿向山山上では 20 年毎に社殿を建て替える式年遷宮の祭事が今も絶えることなく続けられるとともに、日野を治めた蒲生氏 そして数多くの日野商人の崇拝をうけ、立派な社殿などが建っている。

また、毎年 5 月 2 日～4 日に行われる春季例大祭は日野祭と呼ばれ、3 人の神稚児や 3 社の神輿、16 基の曳山車を中心に、古式ゆかしく絢爛豪華に繰り上げられる祭礼は県の無形民俗文化財に指定されている。

新緑で気持ちのよい坂道が鎌掛から北へ猪の子が岳の麓を乗越して綿向山山麓へ続く。



音羽集落の中 街道沿い養泉寺周辺



日野と土山・鈴鹿スカイラインを結ぶ国道477号線とのクロス 音羽交差点

立派な養泉寺の前を通過して 音羽の集落を抜けると 鎌掛谷から約5km。日野と土山・鈴鹿スカイラインを結ぶ国道477号線とのクロス 音羽交差点。「ようこそ綿向山へ」と大きく書かれた案内板が建っている。

この交差点をまっすぐ行けば北畑・西明寺集落へ いよいよ綿向山山麓。左へ行くと日野の町 西へ行くと御在所山の南 武平峠で鈴鹿山脈を越える鈴鹿スカイラインへと続く。この交差点の直ぐ横が近江バスの終点北畑バス停で、一部奥の西明寺まで行くバスがあるが、綿向山へ登る時にはここが起点となる。

音羽の交差点をさらに北へ抜けると広い田園地帯の向こうに手前に送電鉄塔が並ぶ水無山が座わり、その後ろに一層大きくなった綿向山の山塊が見える。

もう、1時30分を過ぎ、まだ 遠いなあとはいつつ、西明寺川の橋を越えるとまもなく 綿向山登山口への大きな道路標識が道の上にかかっている。直ぐ横に小さく北畑林道経由で登山口へいたる案内板がある。

まっすぐこのまま行けば、西明寺口からのルート。右へ折れて田圃を抜ければ、北畑谷林道を經由して、表参道登山口 あと 3km ほどである。



音羽の交差点にある綿向山の案内板 2010.5.2.



綿向山表参道登山口へ伸びる北畑谷林道の入口 2010.5.2.

広い通りから右へ折れて、田圃の中をまっすぐ綿向山へ伸びる道に入る。 標識によると後 3.2km で登山口。

登山口には 2時を過ぎて、頂上までは行けない。 のんびり 新緑の山裾歩きを楽しむ。

田圃には 水が入り 田植えの準備に忙しい。振り返ると遠くに歩き始めた鎌掛谷周辺の細長い猪の子が岳が見え、山に登れば水の入った田圃が光って 素晴らしい景色になるだろう。



田圃の中を綿向山へまっすぐに向かう北畑谷林道 2010.5.2.



水が張られた田圃の中を進み山裾に到達。そこから右へ折れると杉林がつづく森の中。 まっすぐ伸びた人工林が美しい林の中で、表参道登山口への舗装道路が整備中。 直ぐ南には田園地帯が広がっているのですが、人っ子一人いない深い森に入ったような感じがする。

林をぬけると深い谷の山の中腹。

下を西明寺川が流れ、対岸には大きな竜王山の山体が見える。新緑に包まれた綿向山と竜王山の間の谷間を送電線が渡ってゆく。

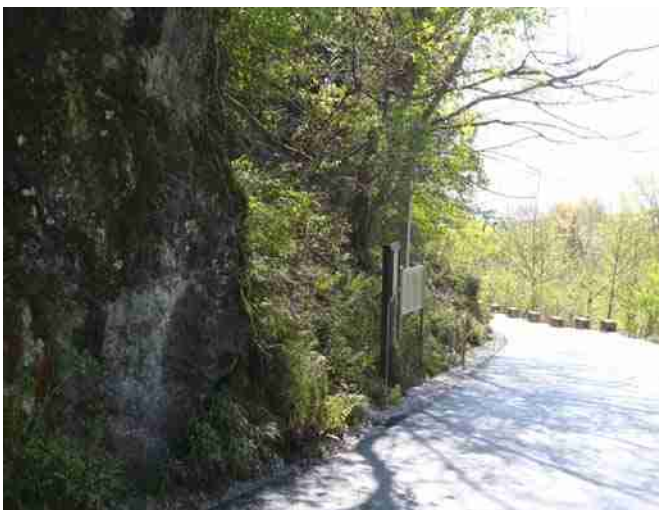




西明寺川が流れ下る竜王山と綿向山の間の深い谷間を送電線が渡ってゆく 2010.5.2.



素晴らしい新緑模様に包まれた竜王山の山腹 2010.5.2.



綿向山山麓接触変質地帯 2010.5.2.

パンフレットによると このあたりは数億年前に形成された石灰石に噴出した 花崗岩が貫入して出来る変成岩の露頭が見られる接触変質岩地帯で天然記念物になっている。
谷筋を少し登っていった大きな岩の横の道端に案内板があるが、周辺も草木ら包まれて その中身はよくわからない。

綿向山山麓接触変質地帯の直ぐ横の山際には大きな岩があり、谷のそこの方にも大きな岩がごろごろ。これらが変成岩かもしれませんが、でも 直ぐ 熱水鉱床や花崗岩地帯というと日本の鉱物資源帯。よくわかりませんが、このあたりも 鉱物資源帯だったのでしょうか……



綿向山山麓接触変質地帯周辺の谷

綿向山山麓接触変質地帯をさらに上部へ谷筋をつめるとだんだん谷が浅く巾もせまくなってきたところで舗装道路も終わり、道も本谷から右手の杉林の奥へ曲がり、谷川に沿って少し登ったところが。綿向山表参道登山口で道脇に登山届が出来る小屋がある。谷川を渡って杉林に覆われた綿向き山の山腹に取り付け表参道登山道が伸び、また小屋の横から右手に水無山から綿向山への道がある。時間は午後2時半山から降りてきたグループが小屋で休憩している。ここから頂上までのコースタイムは登り2時間 下り1時間20分。そして 日野の町まで歩くとなると今から頂上へ登って降りてくるはちょっと無理。でも 登り口を前に帰るのはいや。杉・檜の美しい人工林の森を抜けて、素晴らしいと聞くブナ林まで行きたいと4時までと時間を決めて、小川を渡って美しい杉と檜の人工林の中をつづら折れの登山道に取り付く。



綿向山 表参道 登山口の入口 2010. 5. 2.



綿向山 表参道 登山口 2010. 5. 2.

谷川を渡るとすぐに綿向山の山腹をジグザグにつけられた登山道が5合目までつづく。

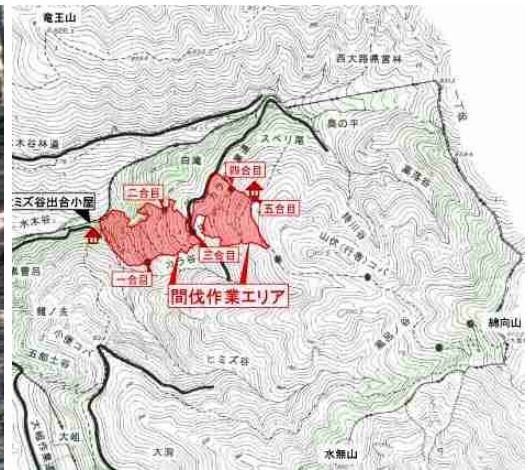
視界はまったく開けないが、美しく植林整備された杉や檜の美林の中 よく整備された道なので、疲労感はない。



杉と檜の美しい人工林の中 綿向山の山腹をジグザグに延々と続く登山道

ちょうど日曜日で作業はされていなかったが、道脇には間伐された木々が登山道脇に並べられている。多くの樹木が立ち並ぶ森であるが、本当に明るいことにはっと気付く。

最近では樹木の手入れがなされないため、森が荒れているとよく言われ、そんな光景をみることも多いが、この綿向き山の山腹の植林地は 枝打ちされ、すらっとまっすぐに伸びた杉や檜が立ち並び、よく手入れされていることが判る。登り始めて 1時間弱 ジグザグ道の角の向こうに送電鉄塔が見える。久しぶりに視界が利く場所。登山道を外れて鉄塔の下へ。



綿向山の山腹から竜王山の山腹へ渡る送電鉄塔 3合目下

北畑谷林道から見えていた綿向山の山腹から竜王山へ谷を越えて渡る送電線が見えていたその場所である。
ぱっと視界がひらけて、こんなに高くまでのぼってきたのか・・・。
歩いてきた日野の田園地帯が見渡せる。田園に水が入って 美しい。
これで 登ってきた甲斐がある。 もう どこからでも引返せると・・・。



綿向山 3 合目下 送電鉄塔のところから眺める日野の田園地帯 2010. 5. 2.

登山道へ戻って つづら折れ道に戻って直ぐに 山腹を横に横切る整備中の広い林道とクロスする3 合目に出る。
林道は北へ谷を越えて竜王山のほうから西明寺集落へ降りる水木谷林道。
山から降りてきた人たちに水木谷林道について聞くと表参道を帰るより、随分遠いので やめた方がいいという。
初めてなので 様子がわからないが、同じ道を引返すのなら、もう少し登れるとまた、林の中へ入って、3 合目上のあざみ小屋を越えて もう少し登ったところで午後4時。もう少し、登れば ブナ林の原生林が美しいという5 合目なのですが、それは次回に・・・。



水木谷林道とクロスする3 合目 2010. 5. 2.



3 合目の上 また 林に入るとあざみ小屋 さらに林の中を登山道が続く

タイムアップで今日はここで引返す。もと来た表参道登山道を下って登山口へ。帰りは 北畑谷リンドウの方へ行かずに まっすぐ西明寺川沿いに西明寺登山口へ下ってゆく。
振りかえると奥に谷を渡る送電鉄塔が股見えてくる。



登ってくる時にも気になっていた接触変質地帯の西明寺川にかかる砂防ダム。高い堰堤の中央に非常に深い切れ込みがはいっている。こんな深い切れ込みの入った堰堤を見るのははじめて。
ここが 天然記念物 接触変質地帯であることと関係しているのだろうか・・・多分 水をせき止めるのでなく 谷底にゴロゴロある大きな岩石の土石流防止の砂防ダム・・・??



接触変質地帯をまっすぐに流れ下る西明寺川に設けられたスリットの深い砂防ダム堰堤 2010. 5. 2.



西明寺登山口のバス停（西明寺口）から眺める綿向山 2010. 5. 2.

ぶらぶら歩いて 五時過ぎに西明寺登山口のバス停（西明寺口）のところまで降りる。
ここにバス停があるので、「少しバスを待てばいい」と考えていたのですが、日曜日にはこの西明寺へのバス路線は運休とはじめて聞く。この路線は西明寺集落の生活路線。北畑口まで約4km 歩かないとバスがないという。
ちょっと 足が痛くなっていましたが、暮れ行く山里を眺めながら国道477号線との交差点北畑口まで歩く。

鎌掛谷の石楠花を見に来て 夕方の日野祭との間の時間つなぎにと歩いた綿向山山麓の walk ですが、新緑の春を楽しむすばらしい里歩きでした。早い機会に次回 は綿向き山の頂上へ・・・。

薄暗くなりかけた 6 時前
北畑口から日野へバスで。



3. 馬見岡綿向神社 日野祭（宵山） 2010 .5. 2.夕



名前だけは知っていましたが、見物したことがない「日野祭」。

蒲生氏郷の城下町で近江日野商人のふるさと日野町の街中を本豪華な曳山が町を練るといふ。

日野の街は西の近江鉄道 日野駅周辺から東の向町周辺まで東西に伸びる街道筋を中心に細長く町並みが続き、その町並みの東端のところに綿向神社があり、さらにその東に綿向山がそびえ、町を見守っている。

馬見岡綿向神社は綿向山頂上に祠が祀られたのが始まりと伝えられ、その後 西暦 796 年に日野の郷に里宮として綿向神社が祀られた。綿向山山上には その後 綿向神社の奥之宮（大嵩神社）が祀られ、古来より 20 年毎に社殿を建て替える式年遷宮の祭事が今も絶えることなく続けられてきた。

その後 綿向神社は戦国時代の蒲生氏 江戸時代 数多くの日野商人の崇拝をうけ、立派な社殿などが建っている。日野の守り神として広く信仰を集める。

毎年 5 月 2 日～4 日に行われる春季例大祭は日野祭と呼ばれ、3 人の神稚児や 3 社の神輿、16 基の曳山車を中心に、古式ゆかしく絢爛豪華に繰り広げられる。



馬見岡綿向神社の最寄のバス停 向町で降りて 綿向神社へ向かう。町並みには祭礼の提燈が掲げられているが、特に多くの人でもなく静かなもので、多少拍子抜け。神社にも特に夜店が並ぶわけでもなく静かなもので 6 時過ぎに帰ってくるという神輿を待っていると聞くと静かなもの。

街道筋の町々の曳山倉から引き出されて飾り付けられた曳山の周辺だけが祭囃子の音とともに華やかな祭り気分をかもしている。 宵山という夜店が立ち並び人並みでごった返すと創造していましたが、本当に以外。

祭りが観光化する中で、曳山町の人たちがそれぞれ子供から年寄りまで思い思いに楽しむようだ。

特に宵山はそうようで、曳山の上には普段着のまま多くの子供が乗っていたり、街道筋に椅子を出して年寄りが通りを眺めていたり いたって普段着である。



道端で談笑している年寄りによると「まもなく 200m ほど辻まで曳山を引いていって そこに 3 つほど曳山が集まる 若い人はやっぱり 曳山を曳いて基地を練り歩きたいようだ」としい。

不意に「綱もって 一緒に曳山引いて・・・」と声をかけられてびっくり。綱には普段着の人も数多く参加している。

観光客相手でなく 普段着の祭り そんな宵山。

もっとも 明日は晴れ姿 祭りの表情も一変するのですが、こんな祭りもいいとつくづく思いました。

夕闇迫る街中を 祭囃子に吸い寄せられて 曳山めぐりをして 夜遅くまで 街中を行ったりきたりでした。



綿向山が見守る日野祭 神輿が神社へ帰ってゆくと曳山の提灯に灯がともり、祭囃子もいっそう華やかに



曳山の上には 子供たちが鈴なり また曳山の中にも



家から出てきた人たちが

ひょいと曳山の綱に手をかけ 一緒に引いてゆく

暗くなってくると 街道沿いの家過度には祭灯が置かれ

辻に集まってきた曳山が祭囃子を競演し、

多くの人とその周りを取り囲む。

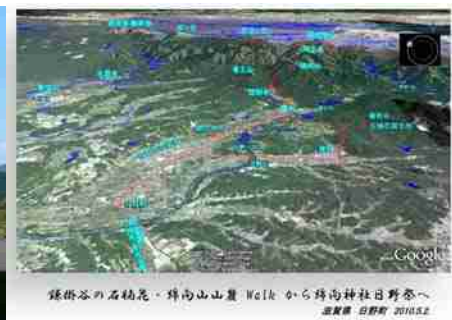
こちらは 若者が主役 宵山も 最高潮である







近江日野町 馬見岡稲南神社「日野祭」 曳山 2010.5.2.日野祭 富山



鎌掛谷の石橋花・稲南山山麓 Weik から稲南神社日野祭へ
撮影者 日野町 2010.5.2

